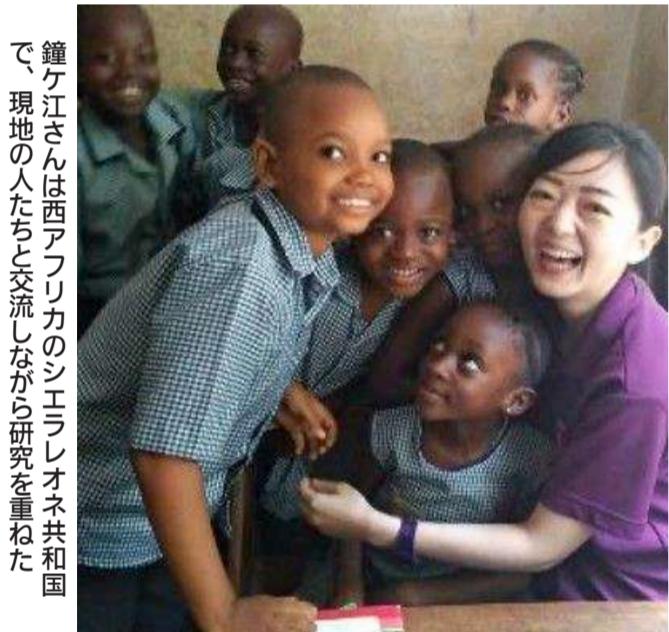


「自分らしく生きる」を支える



今年7月に住宅型有料老人ホーム「アニカ足寄」をオープンした鐘ヶ江さん。「自分らしく生きる、を支える」をミッションに掲げる



鐘ヶ江さんは西アフリカのシエラレオネ共和国で、現地の人たちと交流しながら研究を重ねた

A photograph showing a woman with dark hair and a purple shirt smiling warmly at the camera. She is surrounded by several young children, all of whom are smiling. The children appear to be of African descent. The woman is holding a small white object, possibly a book or a piece of paper, in her hands.

て訴えたが、「あなたが一生懸命に見ていたら、その人は最期の最期まで生きられる」と言われてはつとめた」と述懐する。

15年には、大地震のあつたネパールに国際緊急救助隊の一員として派遣。「世界政治の中で、日本の立ち位置や、自衛隊がどのような支援ができるかを知らなかつた。何もできなかつた」。無力さも感じた。

23年に同大同研究科博士課程修了。国内、特に地方にになり、「国際支援や世界

全員で祝福し成長を見守る。一方、栄養失調や感染症などで亡くなる人もいた。驚いたのは葬式だった。「結婚式と間違つぐらい華やかだつた。お金のある人がご飯やお酒、ジュースなどを買い、お金のない人は歌や踊りを披露する。みんなが故人の思い出を話している。村人全員が笑顔で送る。人生に対する敬意と祝福があふれている」

「當利企業」という言葉は大嫌い。株式会社は金もうけが目的ではなく、事業目的を達成するための組織すぎない。當利はただの継続の手段であるべきだ」。

伊藤忠商事などで勤務していた岩渕さんは、シエラレオネ共和国で、ゼロからパイナップル畑や加工場を作つて雇用を生み、地域コミュニティーを激変させた経験もある。

海外派遣 災害看護学

経験重ね「地方で挑戦」

「自宅のように」
「アーニカ足寄」は、町中
心部の「在宅療養支援診療
所 ホームケアクリニック
あづま」（町南5ノ3）の
2階にある。末期がんや難
病を抱える患者らが、残さ

【足寄】元陸上自衛隊幹部で、看護師として海外にも派遣された経験を持つ鐘ヶ江（かねがえ）紗里さん（36）。今年7月、足寄町内で住宅型有料老人ホーム「アニア足寄」をオープンさせ、末期がんや神経難病など、医療依存度が高い入居者らに寄り添う毎日を過ごす。自衛官時代の病院勤務や海外派遣、退官後のアフリカでの経験などを踏まえ、たどり着いた足寄の地。「自分らしく生きる」を支える」とする使命を、うする覚悟だ。（北雅貴）

鐘ヶ江紗里さん(36)



国際緊急援助隊の一員としてネパールに派遣された鐘ヶ江さん。「何もできなかっ」との思いが新たな進路の契機になった

「アニカ」開設
シエラレオネは
生と死が身近に

つているのに、患者や家族が望むような、孤独を感じずに最期を迎える場が少ないと、率直に思った。

元陸自幹部・看護師 足寄に老人ホーム開設